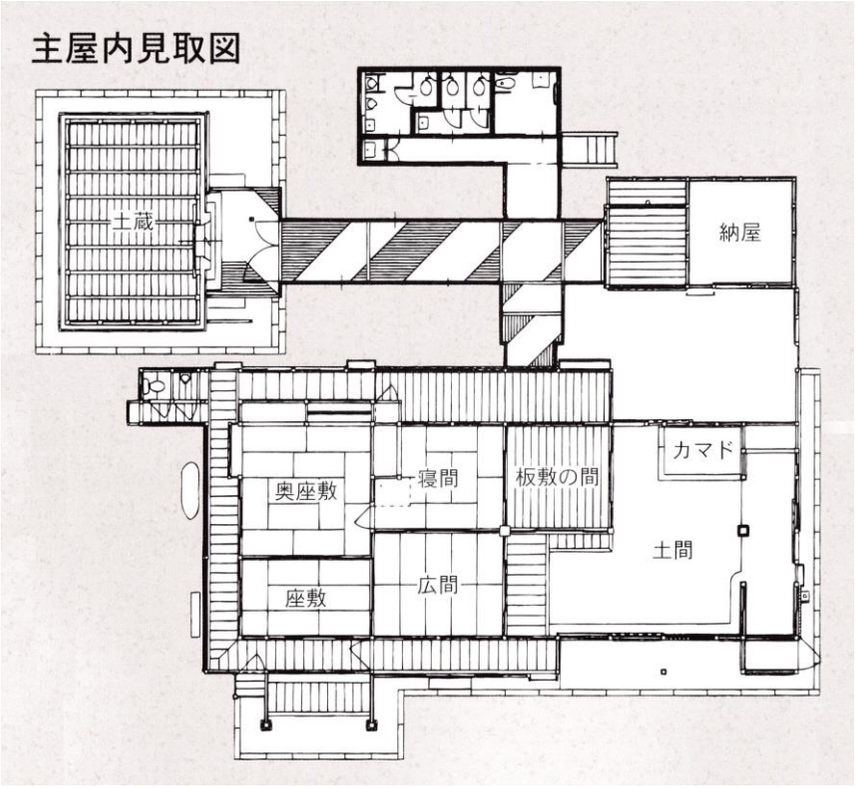
● 土蔵 ●

白漆喰の外壁に黒漆喰の両開き扉を持つ土蔵は、二階建てで、一階には長持ち・お膳などの生活道具、二階には書籍・古文書などが保管されていました。二階に上がる階段には箱階段が用いられ、一階は高床で 1.2mの通気用の空間があります

● 広間・寝間・板敷の間 ●

この三つの部屋は、家族が生活する場所です。広間はもともと中座敷とも呼ばれ、10 畳の広さがあります。鴨居は 40 ㎝をこえるケヤキの一枚板を使用しています。寝間は 10 畳の広さで、主屋内で唯一、押入れがあります。板敷きの間は、茶の間とも呼ばれ、家族が食事をした部屋で、長屋門からの出入りが見通せるようになっています。



(越谷市教育委員会の作成したパンフレットより引用)

● 座敷・奥座敷 ●

座敷と奥座敷は、式台付き玄関から入り、幕府や大名の役人などの来訪の際に利用される正式な部屋です。座敷は 7 畳半の広さで、奥座敷の控えの間として利用されていました。奥座敷は 12 畳の広さで、正面には「床の間」縁側との間に出窓風に設けられた「出書院」、床の間の脇には「違い棚」が設けられています。

● 納屋（味噌部屋・道具部屋）●

納屋は 2 部屋あり、味噌部屋は味噌蔵とも呼ばれ、味噌の発酵、醤油や酒の保管などに利用されていました。内部から屋根裏を見上げると瓦の下地に杉皮がみられます。道具部屋は女中部屋とも呼ばれ、日常使用する食器類が押し入れに収納されていました。かつては渡り廊下で主屋や土蔵と行き来することができました。